

令和元年度 長崎県立西彼農業高等学校

学校評価表

教育方針	長崎県教育方針に基づいて、高等普通教育と農業・家庭に関する専門教育を施し、専門的知識や優れた技術を身に付けさせるとともに、豊かな自然を守り、命の尊さや個人の尊厳を重んじ、公共の精神を身に付け、我が国や世界の平和と発展に貢献しようとする調和のとれた人間を育成する。
学校教育目標(目指す人間像)	(1)高い志を持ち、創造性豊かな自立した人間を育成する。 (2)命を重んじ、心優しくたくましい人間を育成する。 (3)郷土及び国家を担う責任を自覚し、その形成と発展に主体的に参画する人間を育成する。 (4)我が国と郷土の伝統・文化や自然を誇りに思い、これからの国際社会を生きる人間を育成する。。
本年度の努力目標	(1)学力向上と朝の読書への取組を推進し、授業規律の確立と家庭学習の定着化を図る。 (2)基本的な生活習慣を確立させ、規範意識の高揚と生徒指導の充実を図り、暴力の根絶といじめ防止に努める。 (3)資格取得やインターンシップを推進するとともに、就職・進学・農業自営に対応した進路指導及びキャリア教育の充実を図る。 (4)道徳教育により優しい心を、人権教育により自分を大切にし他を思いやる心を育てるとともに、ユニバーサルデザイン等による特別支援教育の充実を図る。 (5)体育・文化・専門部活動や農業クラブ活動及び各種コンテスト等に積極的に参加、出場、出場、挑戦させ、生徒の自主性を養い、成功体験により自信と誇りを持たせる。 (6)美しく、環境に優しい学校作りを努めるとともに、ボランティア活動を推進し、命を大切にすることを育てる。 (7)教職員自らが研修・研究に努め、各々の専門性を磨き、「分かる授業」を推進し、体罰のによらない指導を徹底する。 (8)地域の多様な人々との協働を通して故郷への愛着や誇りをもつために「ふるさと教育」の充実を図る。

※「評価」の各学期の欄に、下記の4～1の評価を記入してください。

4:十分達成できている

3:おおむね達成できている

2:どちらかという達成できていない

1:ほとんど達成できていない

【評価分野】 1 学校経営								
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間 総括	成果と課題	
学校教育目標	教育目標(目指す人間像)の明確化	教務	学校教育目標を学校内外に明確に示し、90%以上の保護者とその目標を理解してもらうことを目指す。	・育友会総会、評議員会で説明する。 ・「西農だより」やHPを使って広報に努める。	教育目標を理解している保護者が90%以上であった。	4	○	ホームページもリニューアルしたり、大会結果の掲示をこまめに行うなど広報活動を積極的に行った。
					教育目標を理解している保護者が80%以上であった。	3		
					教育目標を理解している保護者が70%以上であった。	2		
					教育目標を理解している保護者が70%未満であった。	1		
【評価分野】 2 教育活動								
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間 総括	成果と課題	
道徳・人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	相談	学校からいじめを撲滅するため、学期毎に年3回の「いじめ・悩みアンケート」を実施し、いじめの早期発見を目指す。	・アンケート結果をもとに、学級担任・学年・生徒指導部と連携しながら該当生徒への面談を実施する。 ・「いじめ・悩みアンケート」の内容を生徒が記入しやすいように工夫する。	計画どおりアンケートを実施し、早期発見に十分効果があった。	4	○ ○	アンケート実施後、気になる生徒については担任に面談を実施していただき、相談部でも面談や声かけをした。
					計画どおりアンケートを実施し、早期発見に効果があった。	3		
					計画どおりアンケートを実施し、早期発見に効果があがらなかった。	2		
					計画どおり実施出来なかった。	1		
教育相談	カウンセリングの充実	相談	相談週間を設け相談室を開放し、悩みの相談にのる。	・対象生徒の面談結果をふまえ、生徒・保護者へ適切な指導・助言を行う。 ・心的要因が考えられる場合は、専門医を紹介する。	適切に対応ができ、十分な効果があった。	4	○	相談室の利用はなかったが、保健室等で相談を受け継続的に対応した。
					適切に対応ができ、おおむね効果があった。	3		
					適切に対応が十分にできず、効果もあまりみられなかった。	2		
					適切な対応ができなかった。	1		

評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題
進路指導	進路指導の充実	進路	生徒一人ひとりの進路実現を図り、1月末の進路決定率90%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生は、学期に1回の進路調査を行う。進路セミナー・ガイダンスを開き啓発に努める。 3年生については、定期的に担任会を開き、進路検討を行う。きめ細かい個人面談、添削指導を行う。 	計画どおり実施し、進路決定率90%以上を達成した。	4	○	西海市企業説明会や進路ガイダンスなどに参加することにより意識が高まっていると思われる。
					計画どおり実施し、進路決定率85%以上を達成した。	3		
		進路	3年間で1つ以上の資格を取得した生徒が80%以上になることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 全校あげて漢字検定に取り組ませる。 専門分野については、必ず1つは資格取得を目指す。 	計画どおり実施したが、進路決定率が80%以上であった。	2		
					計画どおり実施できず、進路決定率が75%未満であった。	1		
特別活動	読書活動の推進	図書	図書の貸出冊数が生徒一人当たり5冊以上になることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 図書便りを2ヶ月に1回発行し、広報活動に努める。 計画的な図書購入を行い、図書の充実に努める。 	1つ以上の資格を取得した3年生が80%以上であった。	4	○	様々な検定に意欲的に取り組んでいた。また、英検を受検する生徒も増えている。
					1つ以上の資格を取得した3年生が75%以上であった。	3		
					1つ以上の資格を取得した3年生が70%以上であった。	2		
					1つ以上の資格を取得した3年生が70%未満であった。	1		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒指導	遅刻者数を昨年度より、30%以上減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会時に1時間厳守の重要性について指導する。 学期初めの1ヶ月半、全職員における登校指導を行う。 遅刻常習者については、担任、生徒指導部と連携して個別に指導を行う。 	生徒一人当たりの年間貸出冊数が5冊以上であった。	4	○	図書便りを月1回発行し、広報活動に努めた。来館者は増えたが、貸し出し数の増加につなげることができなかった。
					生徒一人当たりの年間貸出冊数が4冊以上であった。	3		
					生徒一人当たりの年間貸出冊数が3冊以上であった。	2		
					生徒一人当たりの年間貸出冊数が2冊以下であった。	1		
生徒指導	社会的規範意識の涵養	生徒指導	品位ある服装を指導し、90%以上の生徒が高校生らしい服装をしていることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 服装、髪型検査を毎月行う。 職員的意思統一を図るために、研修会を毎月行う。 校則違反については、イエローカード指導を徹底する。 	遅刻者数が昨年度より30%以上減少した。	4	○	全体的には昨年と同じくらい的人数であった。特定の生徒が多く遅刻している。
					遅刻者数が昨年度より20%以上減少した。	3		
					遅刻者数は昨年度とほぼ同じであった。	2		
					遅刻者数が昨年度より増加した。	1		
生徒指導	社会的規範意識の涵養	農務	あいさつ・時間を守る行動・自ら考えて行動ができる生徒が90%以上になることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 始業時間を守らせ、授業時、終了時に実習服の着用について全職員で指導する。 実習時考える習慣を身につけさせ、自主的に活動できるようにする。 	高校生らしい服装をしている生徒が90%以上であった。	4	○	イエローカード指導の数は大幅に減少した。服装の乱れは少なくなっている。
					高校生らしい服装をしている生徒が80%以上であった。	3		
					高校生らしい服装をしている生徒が70%以上であった。	2		
					高校生らしい服装をした生徒が70%未満であった。	1		
部活動	部活動の活性化	農業クラブ	部活動の活性化と定着化を図るため、全校生徒の活動率80%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒には、部活動の意義や目的、継続の意義を理解させる。 部活動調査を定期的に行い、体育部・文化部・専門部の活性化を図る。 	時間を守り自ら考え行動する生徒が90%以上であった	4	○	ほとんどの生徒が時間をよく守り行動した。午後の実習も昼休みに更衣すませるなどしていた
					時間を守り自ら考え行動する生徒が85%以上であった	3		
					時間を守り自ら考え行動する生徒が80%以上であった	2		
					時間を守り自ら考え行動する生徒が80%未満であった	1		
生徒会活動	生徒会活動の充実	農業クラブ	農業クラブ活動を理解させるため、各行事、大会の案内、報告を毎月1回掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会間の掲示板で、外掲示板を活用し、生徒へ情報を発信する。 生徒の主体的活動を促し、農業クラブの活動内容を積極的に広報する。 	部活動活動率が90%以上であった。	4	○	保育部を中心に活動している。文化部活動を高めたい。
					部活動活動率が80%以上であった。	3		
					部活動活動率が70%以上であった。	2		
					部活動活動率が70%未満であった。	1		
生徒会活動	生徒会活動の充実	農業クラブ	農業クラブ活動を理解させるため、各行事、大会の案内、報告を毎月1回掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会間の掲示板で、外掲示板を活用し、生徒へ情報を発信する。 生徒の主体的活動を促し、農業クラブの活動内容を積極的に広報する。 	月1回の掲示ができ、広報内容も充実していた。	4	○	クラブ広報をもっと充実させるべきである。
					月1回の掲示はできたが、広報内容が不十分であった。	3		
					月1回の掲示ができず、広報内容が不十分であった。	2		
					計画的な掲示ができず、広報内容も不十分であった。	1		

評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題
健康教育	健康教育の推進	保健	基本的な生活習慣を見直し、毎日朝食を摂る生徒が90%以上になることを目指す。	・生徒向けに学期1回、保護者向けに年1回のアンケートを実施し、生徒の朝食の摂取状況を調査する。 ・保健だよりやポスター、保健体育の授業での指導を行う。 ・外部講師による栄養指導等の講演で生徒の意識を高める。	毎日朝食を摂る生徒が90%以上であった。	4	○	長期休業明け直後に低下する傾向が見られるが、生活リズムが安定していくと90%以上に回復していく。今後も継続的な指導が必要である。
					毎日朝食を摂る生徒が80%以上であった。	3	○	
					毎日朝食を摂る生徒が70%以上であった。	2		
					毎日朝食を摂る生徒が70%未満であった。	1		
環境教育	環境教育の推進	環境美化	環境教育を積極的に推進するため、教室の整理整頓及びゴミの分別を徹底させる。	・毎日の取り組みとして、①掃除をはじめに美化・生活委員が教室等のゴミ箱の点検を行う。②ゴミは掃除担当等の生徒が、すぐゴミステーションへ持って行く。③美化委員がゴミステーションでのゴミの分別を行う。	充分できた。	4	○	クラスからのゴミについては分別できているが、生徒玄関のペットボトルの分別がまだ不十分であり、掃除担当者を悩ませている。
					だいたいできた。	3	○	
					あまりできなかった	2		
					できなかった	1		
教科指導	専門教育の充実	農務	インターンシップを全学科で実施し、学科の専門性を高める。	・生徒に日誌に記入をさせる。・学科で巡視を行い、充実した実習が行えるようにする。・終了後生徒にアンケート調査を行う。	企業の生徒評価A以上が80%以上であった。	4	○	一部、接客がうまくできない生徒もいたが、概ね良好だった。
					企業の生徒評価B以上が80%以上であった。	3		
					企業の生徒評価B以上が70%以上であった。	2		
					企業の生徒評価B以上が60%以上であった。	1		
専門教育	資格取得の充実	農務	・農業関係の資格を3年間で1つ以上取得した生徒が80%以上になることを目指す。 ・専門の授業の中で資格取得の大切さを教え、取得に向けての指導を各科目で行う。	1つ以上の資格を取得した生徒が80%以上であった。	4	○	ワープロ検定等、授業の延長線上に検定に取り組めるものもあり、資格取得比較積極的である。	
				1つ以上の資格を取得した生徒が70%以上であった。	3			
				1つ以上の資格を取得した生徒が60%以上であった。	2			
				1つ以上の資格を取得した生徒は50%以上であった。	1			
【評価分野】 3 組織運営								
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題
校内研修	教職員の資質向上への取組み	教務	教員の教科指導力を向上させるため校内研修を実施し、「わかる授業」を展開する。	・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・校内研修を実施し、授業の改善を図る。	計画どおり実施でき、充実した内容であった。	4	○	初任者研修や公開授業期間の設定により授業研鑽を深めることができた。
					計画どおりに実施できたが、まずまずの内容であった。	3		
					計画どおりに実施できたが、十分な内容ではなかった。	2		
					計画どおりに実施できず、不十分な内容であった。	1		
【評価分野】 4 教育環境								
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題
学校環境の整備	学校環境の美化	環境美化	校舎内外の美化を徹底する。各学期に3回以上の大掃除をする。	・大掃除のときに、毎日行っている掃除で出来ていないところを中心に取り組ませ、美化委員に点検させる。	充分取り組んでいた。	4	○	生徒の数が少なくなっている中、よく頑張っている。
					だいたい取り組んでいた。	3		
					あまり取り組んでいなかった。	2		
					取り組んでいなかった。	1		
施設・設備の管理	学校施設の充実と環境整備	事務	全ての校内敷地巡視を月1回行い、危険・不備箇所を早期発見し、迅速に修繕・改修を行う。	・手持ち予算で対応できるものは、1週間後までに修理完了、その1週間後までに支払いを完了し、随時記録する。 ・予算要求を要するものは、1か月以内に予算要求	毎月巡視を行い、全てを修繕・改修できた。	4	○	大規模な施設修繕以外は、危険不備箇所も可能な限り対応している。今後は耕作放棄地等も増えてきたため、その活用をどのようにしていくかが課題である。
					毎月巡視を行い、予算要求中以外は改修・修繕できた。	3		
					毎月巡視は行ったが、改修・修繕できなかった箇所がある。	2		
					毎月の巡視が行えず、改修・修繕できなかった箇所もある。	1		

【評価分野】 5 開かれた学校づくり									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間 総括	成果と課題		
保護者との連携	育友会活動の充実	教務	学校の教育活動に対する保護者の理解を深めるため、総会への平均出席率75%以上を目指す。	・全体で講話講演を行い、参加を促す。 ・全体会への参加を呼びかける。 ・メールメイトを活用して早期に案内を行う。	総会と三者面談への平均出席率が75%以上であった。	4	総会への出席率は昨年並みであった。次年度は行事の変更等もあり、早めに案内し、出席数を増やしたい。		
					総会と三者面談への平均出席率が65%以上であった。	3		○	
					総会と三者面談への平均出席率が55%以上であった。	2			
					総会と三者面談への平均出席率が45%未満であった。	1			
情報提供	情報提供の充実	情報管理	学校の教育活動・地域連携等の情報をHP上で月5回以上発信する。	・学校の教育活動において行事ごとに情報を発信する。 ・地域連携等の情報を積極的に発信する。	HPを月5回以上発信し更新できた。	4	特定の職員だけでなく複数で更新できるようになったことは前進である。次年度も研修会を開き複数人で対応できるように努力したい。		
					HPを月4回以上発信し更新できた。	3		○	
					HPを月3回以上発信し更新できた。	2			
					HPを月2回以上発信し更新できた。	1			
地域貢献	専門教育の地域貢献	農務	農業高校の教育力を示すため、県立学校地域開放講座で、参加者の満足度90%以上を目指す。	・最終日に受講者アンケートを実施する。担当科目の専門性を高め受講者が満足していく教材を準備する。	大変に満足したの割合が90%以上であった。	4	開放講座は毎年好評で、定員20名にもかかわらず25名の参加であった。		
					大変に満足したの割合が85%以上であった。	3			
					大変に満足したの割合が80%以上であった。	2			
					大変に満足したの割合が75%以上であった。	1			
			農務	専門分野で生徒の農産物生産及び加工品製造の意識を高めるため、スクールマーケットにおいて、商品品質満足度75%以上を目指す。	・来客者アンケートを実施する。 ・農産物生産、製造実習では、商品販売を意識した実習を行う。 ・授業で生徒の理解度を深める。	商品品質満足度75%以上であった。	4	スクールマーケットは地元の方も心待ちにされ、大変好評である。	
						商品品質満足度65%以上であった。	3		○
						商品品質満足度55%以上であった。	2		
						商品品質満足度45%以上であった。	1		
地域の農業高校としての存在価値	西海市と連携した研究活動の推進	農務	西海市と連携した草花・動物の活動を行う。	・各分野で希少植物の保護・移動動物園・草花の植栽活動などの活動計画を立て、西海市に貢献できる活動を行う。	充実感、達成感を感じた生徒の割合が80%以上活動が地域に貢献し	4	今年度は「ふるさと教育事業発表」もあり、複数の部門で積極的な取り組みが見られた。		
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が70%以上活動が地域に貢献し	3		○	
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が60%以上活動が地域に貢献し	2			
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が50%以上活動が地域に貢献し	1			
【評価分野】 6 生徒の教育成果									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間 総括	成果と課題		
学力の定着・向上	家庭学習の定着	1年	定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させ、学習記録表を提出させる。毎日1時間以上学習する生徒が50%以上になることを目指す。		1時間以上学習した生徒が50%以上であった。	4	学習時間の確保はできているようだが、結果に結びついていない生徒も見られるようなので、学習内容も考えさせたい。		
					1時間以上学習した生徒が40%以上であった。	3		○	
					1時間以上学習した生徒が30%以上であった。	2			
					1時間以上学習した生徒が30%未満であった。	1			
		2年	定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させ、学習記録表を提出させる。毎日1時間以上学習する生徒が60%以上になることを目指す。	・期間中の一日の平均学習時間を点検し、学習時間が1時間未満の生徒は、次回の考査前に放課後残して最低1時間学習させる。	1時間以上学習した生徒が60%以上であった。	4	目標は達成することができたが、学習時間が1時間未満生徒も30%ほどいるので学習時間をしっかり確保するよう継続的な指導が必要である。考査前の放課後学習会は毎回実施した。		
					1時間以上学習した生徒が50%以上であった。	3		○	
					1時間以上学習した生徒が40%以上であった。	2			
					1時間以上学習した生徒が40%未満であった。	1			
		3年	定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させ、学習記録表を提出させる。毎日1時間以上学習する生徒が80%以上になることを目指す。		1時間以上学習した生徒が80%以上であった。	4	日常の授業や課題に概ね真面目に取り組んだ。テスト前の1週間ぐらいは全員が毎日2,3時間程度は学習するような生活指導が必要だと思う。		
					1時間以上学習した生徒が70%以上であった。	3		○	
					1時間以上学習した生徒が60%以上であった。	2			
					1時間以上学習した生徒が60%未満であった。	1			